

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的
☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

■2面 女性ニュース ■3面 読者のページ/まんが/短歌
■4・5面 性暴力やDVのない社会へ/ジェンダー講座/ホットライン ■6面 パソコンの「サポート詐欺」にご注意/母の歴史 ■7面 新婦人の活動/主張/いま教室で



広島市 若山恵子(73)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

1945年8月6日 わたしは 2025年 わたしたちは

原爆を体験した子どもたちの作文に、いわさきちひろの絵を添えた『わたしがちいさかったときに』をもとに新しい絵本が生まれました。ちひろ美術館・東京では、「戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ『へいわ』」展も開催されています。

あさ8時15分、
わたしは

『わたしがちいさかったときに』(初版1967年 童心社)は、日本ではじめて、青少年に向けて「戦争」をテーマにつくられた絵本です。1945年8月6日から6年後、原爆を体験した子どもたちがつづった作文で構成されています。お兄さんと遊んでいたときにピカと光った時のこと、赤ちゃんを抱いたお母さんといっしょに逃げたこと、いもを煮てお父さんにあげようとしたら

私たちが同じ
毎日があった

被爆80年の今年、同書をもとにした『1945

体が冷たくなっていたこと。立て続けに家族を亡くし、大変な生活をしていること…。

年8月6日 あさ8時15分、わたしは」が発刊されました。児童文学作家のあまんきみこさん、詩人のアーサー・ビナードさん、当時作文を書いた小川(長野)俊子さんが言葉を寄せ、子どもたちと今をつないでいます。

子どもたちの言葉は、大きな文字で、低学年でも読みやすくなりました。そして、ちひろが水彩であざやかに描いた、花や笑顔の子どもの絵も載っています。

「戦争が
なければ」

と自分を重ねて、想像を広げてほしいと考え、再編集しました」。

80年前の8月、小川俊子さんは5歳でした。原爆で家が倒壊して、母親が亡くなりました。被爆した父親と兄は、8月の終わり頃、俊子さんが疎開していた愛媛まで会いにきたそうです。父親が「大きくなったねえ」と言っ、ひざに自分をのせてくれたことや、そのあと、亡くなっていく様子を作文に書きました。そして今回は、俊子さんは戦争になる前の楽しかった家族との日々を思い出し、「戦争がなければ、原爆が落とされることも、両親をなくすこともなかった」と、今の思いをつづっています。

現在、ちひろ美術館・東京で開催中の「ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ『へいわ』」展は、本に掲載されたちひろの絵とともに、世界と日本の絵本がどう平和と戦争を伝えてきたのかを展示しています。

〈2面へ〉



『1945年8月6日 あさ8時15分、わたしは』
童心社 1700円+税



28・29ページ

9月27日号は休刊です

